

何でも上がる上がる

国労などインフレ手当要求

される賃金と労働条件を」と要求するのは当然であろう。

ことあるごとに、全職場分会が決起して発行する『日刊みかわ』（三川指導部発行）は、「も早や新労組員のみなさんと手をつなぎ、力を一つにして闘う以外に道はない」として、いま連日訴えつ

の中で、私たちが血と汗で稼ぎとった賃金を、独占資本と政府は吸い上げていく。これ以上生活を悪化させないためにも、物価手当やインフレ手当を獲得するためにも金三池労働者がストライキをうとう。

闘う塚本雅晴
さんへ激励を

のま三池労組大谷地域分会有志
事務局長・杉本一男さん）が中
になって、「塚本雅晴君を激ま
運動が起きている。
訴した。
そこで仲間と話し合い、十月十
六日、塚本さんは小田原地裁に提

炭労は石炭政策転換を要求して闘っているが、そのなかで閉山は続く。だれが食いつぶしているのだ。（筑豊の廃坑で）

会に所属し、大谷地域分会員でもある塚本喜晴さんの長男。昭和四十四年に玉名工業高校卒。厚木自動車部品会社（日産系列）入社。技術員として設計課勤務となり、所定の実習期間も終え、今日まで雑作業。そのうえ、昇給も最低。

新勞組員の顔も

確実な歩み続ける
坑外

けているのが、「坑外」(四山
 指導部第七分会)
 ウラ・オモテを使い、三段組み
 も、もうちゃんとおさまった。

「要なのだ」。ウラのそれが、「オオ、カミさま……。物価メーデーに参加して」。

それに「災害十周年のなかで」

をねぎらい、新労組員（それも匿名で）から、さかなまで添えて酒一本の贈りものさえあったのだ

▼…三池努組の職場新聞のうちで、何といっても確かな歩みを続けている。その発行が、今は確実に守られて、その発行号数も七十号。ガリで切った文字もうまく、見出しの文字も、記事の内容にもとずいて字型を変えるなど、心にくく「坑外」にはすでに、新労組員の書き手も結集、ほとんど毎号顔期待する。

希望を二つ。一つは、もっと職場の新労組員や組夫仲間、いっそう苦しい、なまの声を真っ向うからつぎ出してはどうか。

ち〃(百十八号)は、「もう怒ったわヨ」の記事で、町の話題を伝えている。

けられぎりますでしょう。どうしてこうなるの。

内のダーリンのお好きなおビ―

「お米が十キロあて二百二十円アップされるし、お麦が三五%上がるし、ダーリンのサービスでも



長との話し、不当にもきた。

警察隊は、鉱中の組合員にこうして起

機動隊を先頭とする警
求め、鉾長室で待機中
を加えてきた。事件に

もかくとして、NHKのニュース（地方）は、熊本で二中小企業が、毎月五千円の積み上げと、5%の手当をつけることを伝えました。さて、三池炭鉱は？

▼……存じですが、早くも世間ではインフレ手当がではじめました。よそはと

いざアーマすのよ。
ダーリンのお給金は上がらないのに、これでしょう。もう私たちも、断然許せないわ。買わない運動でも起こして、政府と企業に反省させなくちゃ」

きないぞアますの。

宮浦鉦長室事件、30回公判

会社こそ責任を負え

蓮尾政治局員、証言台に

六日樺岡地方裁判所で、「蒲浦
鉾鉾長室事件」裁判（松本時男裁
判長）の第三回公判開廷。政治
局の運尾信次郎大牟田市議が証言
三井資本と警察権力による不当彈
圧の事実を明らかにした。

からぶつけること。二つは、ウ
ラ・オモテに二つ二つ、カニミ欄
昭和四十四年の春から夏にかけ

この目証言台に立った同市議は
第一に、整然と座りこんでいる三
池労組員と対象的に、警察権力が
いきなり実力行使に突入、組合長
(当時は宮川)の話し合い申し入

三池労働組は、宮浦鮫の坑口の三川
鮫坑口への統合阻止を中心に、こ
り押しに強行されてゆく人間無視
の合理化に反対し、はげしい闘い
を展開。ろくに話し合おうともし
ない宮浦鮫長に、何とか糸口を求
めようとする。

れも踏みになじって弾圧した事実。第二に、しかも組合員が自主的に退去しようと「がんばろう」を響け合っている際、突然侵入してきた事実。第三に、組合員が退去しようにも、会社側に誠意をもって

めて、三池労組の組合員は同館長室にはいり待機していた。

そこへ機動隊の不意の弾圧となり、古賀組会長(当時書記長)ほか九人が、不当にも福岡地検から起訴され、裁判となったもの。

問題解決に当る気がまがまったく見られなかった事実——これらのごとこそあの事件をひき起した根本原因である点を、鋭く指摘した。真に会社こそ責任を負うべきである。

今は想い出となつた、二人での闘い

吉野 中川 美津子

火花

その後、この心からなぐさめとお心づきしをいただいておりますのに、こあいさつをと思っておりますが、学校づめのため失礼しております。

主人の死があまりに突然だったのでただぼうぜんとして泣いてばかりおりましたが、少しは元氣を取りもどしました。林しくしてハ

を前に裁判に踏み切られ、ますますきびしさを増され、ここに私たち森永ミルク中毒事件も、岡山、大阪と各地で裁判に入りまして、お互いに被害者の立場からあくまで企業の責任追及をおしすめて

と生徒や職員の皆さんが、顔色ばかりしかがってしまって、早く元気になるのが、皆さんへ心配をかけることだと、気をとりなおしています。

また、あちらこちらの方から闘

いかねばなりません。

毎月、大牟田被害者連絡協議会で会をもち、話し合いをして理解し合っています。今後とも会をすいませう。

いまだに主人の写真にいろいろうれしく思っております。

いの中に主人の意志をついで頑張ろうと、心からお便りをいただきうれしく思っております。

めていく中で、意見を交換し合いながら、前進していかなければならないと思つております。

いつも二人で（もちろんご主人と、の意味）、どちらへもでかけていましたが、いまは一人で（お表のもの、の泥水、集会でのあい

と、主人が一つの時金箱に入れて
森永ミルク中毒の子供のために
と重なったりして頑張っている
けれど、学校の仕事
さうなときとめておられます
主人の遺品を整理していました
三池闘争のときのハチマキ、
腕章などでてまいました。改め
て当時のことを、思い出していま
す。

いたお金は、この会に一万円差し上げました。

またもう一つの貯金箱には、大牟田被災者連絡協議会のために、この前の九月の会のととき一万円差す。

ではこれにて失礼致します。皆様

今度〇〇・遺族事件十年目にあたり、主人の意志と私の気持だけを、ここにわずかですが、五千円せめて何かの足しにお使い下さいませ。同封しておきます。

一度おうかがいして、皆さまのさまへどうぞよろしく。

×

このお便りは故中川一美さん（港務所退職者）の未亡人、美津子さんから、山下書記長へ寄せられたものです。